

編集後記

『ギリシャ哲学セミナー論集』の第14号をお届けします。今回は、2016年9月17日・18日に開催された第20回共同研究セミナーでの研究発表・シンポジウム提題論文を収めています。

20周年の記念に当たる今回のセミナーでは、「なぜいまギリシャ哲学か——回顧と展望——」というテーマでシンポジウムを開催し、設立発起人の一人である田中享英氏、現在運営委員会幹事を務める荻原理、そして現代哲学から森一郎氏に提題いただき、活発な議論を行いました。1997年3月の「設立趣意文」もセミナーウェブサイトに掲載してありますので、荻野弘之代表のシンポジウム趣旨説明と合わせてご覧ください。

また、シンポジウムと緩やかに連動する形で、主題研究には「哲学のすすめ (Protreptikos)」のテーマを設定して、3名に発表いただきました。時代や哲学者に限定せず、特定の視点からギリシャ哲学を再検討する企画で、20年を迎えた活動に新たなページを記せたと思います。

18日夕方に閉会の辞を述べられた神崎繁氏は、3年間にわたってセミナー代表を務めてこられました。会で挨拶をされた後、長年闘ってこられた病気が重篤になり、10月20日に逝去されました。63歳でした。先輩として哲学の研究と学会を牽引してくださったことに感謝しつつ、心からご冥福をお祈りいたします。

今回も、立教大学観光学部兼任講師の加藤喜市さんに編集の作業でお手伝いいただきました。心より御礼申し上げます。

2017年3月31日 編集担当 納富信留 荻原理